

社研沖縄実態調査に参加して

梶原 勝美

平成 19（2007）年 3 月 11 日から 15 日まで、初めて社研沖縄実態調査に参加したが、一言でいえば、大変楽しく、多くの勉強が出来たということである。

まず、今回の実態調査によって、沖縄の過去、現在、未来に接することが出来た。ひめゆりの塔及び同平和祈念資料館に行き、また、平和の礎にお参りして、かねがね心にわだかまりがあった沖縄の過去に少しだけ直面することが出来、改めて、平和の意味を考え直すこととなった。しかし、沖縄本島の米軍基地を目の当たりにして、現在の厳しい沖縄の姿に直面せざるを得なかった。そのような沖縄であるが、少しだけ明るい未来が見えたのが、IT 産業の振興により沖縄の未来を築こうとしている NPO 法人フロム沖縄との意見交換、ヒアリングであった。沖縄の発展を IT に賭けている姿勢がよく分かり、まだ初歩的段階かもしれないが、中長期で見ればかなり明るい一面が感じられた。それは、本土に進学、就職のため沖縄を離れた若者の U ターン率はかなり高く、彼ら若者が未来の沖縄を作る意欲が感じられたが、同時にかなりの障害と課題があることも事実のようである。

次に、本島よりさらに南の石垣島での実態調査では、いくつかの成果があった。石垣市役所での意見交換、ヒアリングは石垣島自体が戦争の直接的な影響がなかったためか、本島とはかなりニュアンスの異なるものであり、なかでも離島の経済発展のための努力の一つとしてのマンゴーの新しい品種改良と栽培を研究開発していることが注目される。多くの問題を解決して、マーケティングに成功して、全国ブランドになることを期待したい。また、私の専門の一つである流通の点からいえば、石垣島で興味深いことを発見した。それはコンビニエンスストアについてであるが、通常はドミナント戦略を採用するため、ある一定以上の市場がなければ大手のコンビニエンスストアのチェーンは進出しないので、実態はどうかと関心を持っていたが、中堅のチェーンがしっかりと進出していたのが驚きといえば驚きであった。

最後になりますが、これらの実態調査が実現し、成果が上がるように見えないところで準備した事務局の努力と今回の実態調査の資料をいただいた先生方にも深く感謝する次第です。また、楽しいことも数多くあり、八重山諸島視察及び毎晩の懇親会など大変思い出深い時間が過ごせました。なかでも、参与の先生がたと語り合った時間は貴重な体験となった。次回の実態調査にも参加したいばかりか、多くの所員の方々にも参加することをお勧めしたい。

以上